

「音楽で街の笑顔をつなげたい」

1、プロローグ

私の住む島原半島は、日本で初めての神学校(セナリヨ)が建てられた場所だ。四百年前、日本最先端の西洋教育がなされ、文化的に進んだ土地だった。12音律のオルガンがヨーロッパから入ってきて、それからドレミファソラシドの音階が初めて使われたのである。そんな誇らしき栄華も今はどこへ行ったか、その名残もない。

私は、前々から文化的意識の低さ、人々の関心の無さが気になっていた。

そんな時私は、あるきっかけで「音楽の力」や「音楽の奇跡」を目の当たりにし、その経験から、音楽で街の笑顔をつなげたいと思った。

そして生まれたのが、「島原半島☆音楽 de 笑顔プロジェクト」。

2、「島原半島☆音楽 de 笑顔プロジェクト」とは？

まず、音楽を「音学」や「音が苦」と思っている街の人の考えを変えるため始めたのが、「半島各地で参加型のコンサートを開くこと」。半島各地のコンサート会場で笑顔の花が咲き、次第に趣旨に賛同してくれる仲間が増え、楽団が誕生した。

そしてその楽団によって、2002年から毎年子どもの日に「音楽世界一周旅行」というタイトルの無料コンサートを自主開催。そのコンサートで音楽の楽しさを知った方からの紹介で、学校や保育園、いろんな場所で演奏する機会も増えた。また、半島各地の子供達との音楽交流のため、毎週土曜日は各町の余暇活動で子供達を育成している。最近では、町の公民館とタイアップして、街の人が誰でも無料で参加できる講座として、高齢者の唱歌を歌う講座や、リコーダーオカリナなどの楽器講座、民族音楽講座なども開催し、街の人と交流を深めている。子どもたちは、学校も学年も違う子供達で協調性を学び、高齢者は歌うことで心も体も健康に。

行った先々で好評を得、音楽の輪・笑顔の輪は、老若男女問わず今も広がりを続けている。



写真1 2009「音楽世界一周旅行」コンサート



写真2 尋常小学唱歌講座



写真3 小学生パーカッション(打楽器)講座



写真4 リコーダー講座コンサート

3、出てくる問題点

しかし、問題は多々ある。

自費で行っている活動には限度がある。現在は、呼んでいただいた出演料を活動資金にしている。なるべくお金がかからない方法をとっては考えているのだが、「市のホールを市民参加型のコンサートだからと無料で貸してください」と言っても、簡単には許可が降りない。こういった点では、本当に毎年苦勞しており、切実な悩みである。

また、半島内は3つの市で成り立っており、それぞれの市の音楽団体の交流の機会も乏しく、市をまたいでの交流は難しい。

4、これからのこと

これからも半島各地で音楽交流を続け、音楽と笑顔のあふれる街にしたい。

具体的に言えば、これまで通り、半島各地で指導を続け、年に一回その土地(開催地)の人が主役(出演者)のコンサートを開く。そしていつか、半島を音楽でひとつにしたい。中心の雲仙温泉で、各地から代表の団体が参加する、半島全土の音楽フェスティバルを開催したい。

私は、音楽の力を信じている。

「音楽の輪」は「笑顔の輪」。

これからも音楽で街の笑顔をつなげていこうと思う。